

理事会報告 2

日本菌学会 2019 年度第 2 回理事会 議事録

日時：2019 年 5 月 24 日（金）12：00 - 15：00

場所：秋田県立大学 大学院棟 M109 室

出席者（順不同，敬称略）：

会長 山岡裕一 副会長 矢口貴志

理事：岡根 泉（庶務），清水公徳（庶務），田中千尋（企画・普及），中島千晴（会計），山田明義（国内集会），玉井 裕（日本菌学会会報編集責任者），服部 力（編集），名部みち代（国内集会）

監事：鶴海泰久，田中一新

オブザーバー：（次期理事候補）；田中千尋，矢口貴志，清水公徳（庶務），田中栄爾（編集），糟谷大河（国内集会），谷口雅仁（国内集会），中島千晴（AMC），伴さやか（庶務），本橋慶一（会計），山田明義（日本菌学会会報編集責任者），細矢 剛（広報・企画・教育・普及），保坂健太郎（国際集会），次期幹事候補；折原貴道（庶務）。

委任状：出川洋介（国際集会），太田祐子（企画・普及）。

会議成立の確認

会長，副会長および理事 10 名の出席（委任状含む）により，理事会が成立したことを確認した。次期役員への移行期につき，次期理事候補がオブザーバー参加して開催された。

【報告事項】

1. 庶務関係（清水・岡根 庶務担当理事）

(1) 会員動向：

2019 年 3 月現在，正会員 610 名（国内 566，国外 44），学生会員 132 名，（国内 121，国外 11），英文誌購読会員 0 名，終身会員 114 名（全て国内），名誉会員 24 名，功労会員 2 名，賛助会員 15 社。会員総数は 898 名。

名誉会員の林康夫氏（2018 年 8 月 16 日），終身会員の篠原正行氏（2018 年 1 月），塚田哲丸氏（2018 年 4 月），中瀬崇氏（2018 年 7 月 24 日），西山進氏（2018 年 8 月 8 日），大和浩國氏（没日不明）が逝去された。黙祷。

(2) メール理事会の報告：

2018 年度 4 月 14 日以降の第 1 回理事会以降分で，以下のメール審議が行われたことが報告された。

- ・2018 年 5 月 1～7 日：若手会員への渡航支援について
- ・2018 年 5 月 18～21 日：Mycoscience 誌契約書修正について

- ・2018 年 5 月 19～21 日：修正各種規則の確認について
- ・2018 年 6 月 6～7 日：命名規約に関する議論の代議員への転送について
- ・2018 年 6 月 13～15 日：大阪市立自然史博物館の特別展に関する後援名義の使用許可について
- ・2018 年 7 月 31 日～8 月 3 日：AMC 準備委員会メールアドレス取得・維持に関する費用負担について
- ・2018 年 10 月 9～12 日：環境微生物系学会コミッティの担当者選出について
- ・2018 年 10 月 23～26 日：国際シンポジウム開催案について
- ・2018 年 12 月 17 日～1 月 6 日：入会申込書改訂について
- ・2019 年 1 月 29 日～2 月 2 日：菌学会出版物バックナンバーの整理について

(3) 持ち回り総会等の開催：

- ・2019 年 1 月 22 日～2 月 8 日：授賞候補者および授賞候補論文に関する選考
- ・2019 年 3 月 8 日～20 日：名誉会員推挙
加えて，その他の会議として以下の 2 回が開催されたことが報告された。
- ・第 1 回授賞者及び授賞論文選考委員会（平成 30 年 12 月 25 日）
- ・第 1 回名誉会員選考委員会（平成 31 年 3 月 1～6 日・メール会議）

(4) 勝美印刷との業務委託契約及び網野誉税務会計事務所との業務委託契約を自動更新したことが報告された。

(5) 2018 年度業務・会計監査について，2019 年 4 月 15 日に実施されたことが報告された。

(6) 各種規則を修正し，理事会ならびに会則検討委員会（委員長：安藤勝彦）で検討後，2018 年度総会（信州大学，5 月 25 日）に諮り，一部修正の後，承認されたことが報告された。修正された各種規則は 2018 年 11 月 15 日に学会ホームページより公開された。

2. 国内集会関係（山田・名部 国内集会担当理事）

(1) 2018 年度日本菌学会第 62 回大会（信州）の開催報告：

会期：2018 年 5 月 25 日（金）～27 日（日）

大会会長：福田 正樹（信州大学農学部）

会場：信州大学伊那キャンパス（農学部）F 棟（総合実験実習棟）及び講義棟

参加者：272 名（事前登録 235 名，当日 37 名，KMS から参加 40 名）。

講演数：授賞講演 1 題，シンポジウム 5 題，一般講演 115 題（口頭発表 61，ポスター 54），中高生ポスター 7 題。

大会収入：2,059,388 円，同支出：2,059,388 円。懇親会収入：1,001,000 円，同支出：1,001,000 円。懇親会

の参加者は合計 191 名（事前登録 174 名，当日 17 名）．
日韓合同シンポジウム（2018 年 5 月 26 日開催）：20
万のうちの 10 万円がバス代，残り 10 万円はポスター・
パネル代の経費であった．

(2) 2018 年度日本菌学会菌類観察会（島根フォーレ）開催
報告：

会期：2018 年 9 月 22 日（土）～24 日（月・祝）
共催：島根県立三瓶自然館サヒメル，島根県中山間地
域研究センター，菌類懇話会
会場：三瓶山北の原キャンプ場，島根県大田市三瓶町
実行委員長：長澤 栄史氏（一般財団法人日本きのこセ
ンター菌茸研究所）
日程 22 日（土）説明会：三瓶山，島根県立三瓶自然
館サヒメルの紹介（井上 雅仁氏），観察地紹介（東 勇
太氏，宮崎 恵子氏）
23 日（日）8:00-21:00:三瓶山，サヒメル，北の原キ
ャンプ場周辺．同定会場は三瓶山北の原キャンプ場多目
的ホール．
参加者：76 名．
収入：1,412,600 円，支出：1,412,600 円．

- (3) 日本菌学会第 63 回大会（秋田）の開催準備状況につ
いて，2 月末に事前申し込みを終了し，大会日程・プ
ログラムを 3 月に大会ホームページで公開したことが
報告された．
- (4) 2019 年度日本菌学会菌類観察会（青森フォーレ）開催
計画について，会告を NL に掲載済みであり，日菌報
掲載に向け案内及び参加申込書を作成中であると報告
された．

3. 国際集会関係（出川 国際集会担当理事，代読 山岡会長）

- (1) 日台合同国際シンポジウム・ワークショップ Japan-
Taiwan International Joint Symposium and Workshop
by collaboration of the MSJ, the KBMSJ & the MST
(the Mycological Society of Japan, the Kanto Branch of
the Mycological Society of Japan and the Mycological
Society of Taiwan) 『東アジアの菌類多様性解明に向け
て』“Biodiversity of East Asian Mycobiota”
会期：2018 年 12 月 8 日（土）～9 日（日）
会場：神奈川県立生命の星・地球博物館
講演数：一般講演 11 題（口頭発表 7 題，ポスター 4 題），
シンポジウム 6 題，ワークショップ 1 題．
参加者：1 日目 53 名（台湾 12 名，日本 41 名），2 日
目 29 名（台湾 10 名，日本 19 名）．
- (2) AMC 参加補助について，日本菌学会の若手会員を対
象に 10 名（一人 2 万円）程度実施するための募集要
項が提案され，承認された．募集案内は次号の日菌報
に掲載予定．
- (3) 国際菌根性食用キノコ学会 IWEMM10 (The 10th

International Workshop on Edible Mycorrhizal
Mushrooms) の開催援助として，日本菌学会が後援
として 20 万円を拠出し，Mycoscience への総説論文執
筆依頼を IWEMM10 へ行うことが提案，承認された．

4. 企画・普及関係（田中千・太田 企画・普及担当理事）

- (1) 2018 年度の普及行事について，以下の項目が報告され
た．
- ・2018 年 7 月 8 日（日）教員のための講座「変形菌の
採集と観察」：於日大生物資源科学部，共催・神奈川
県立生命の星・地球博物館，後援・日大生物資源科
学部，講師・越前町立福井総合植物園 松本 淳氏，
参加者は教員 14 名，学生 16 名．
 - ・2018 年 8 月 4 日（土）自然史セミナー菌類学入門（大
学生対象）：於科学博物館目黒自然教育園，講師・細
矢 剛氏，参加者 43 名．
 - ・2018 年 8 月 26 日（日）高校生のための菌類講座「博
物館で学ぶ菌類学入門」：於神奈川県立生命の星・地
球博物館，共催・神奈川県立生命の星・地球博物館，
講師・折原 貴道氏，参加者 3 名．
 - ・2018 年 9 月 24 日（月・祝）こどもを対象としたア
ウトリーチ活動「きのこウォッチング」：主催及び会
場・島根県立三瓶自然館サヒメル，講師・細矢 剛
氏，服部 力氏，長澤 栄史氏，運営協力・名部 みち
代氏，山岡 裕一氏，参加者 30 名．普及活動の一環
として「驚きの菌ワールド」2 冊を参加者 2 名に贈
呈した．
 - ・2018 年 10 月 28 日（日）自然史学会連合主催講演会
へのブース出展「身近で不思議な菌の仲間たち！」：
於富山市立科学博物館，担当・保坂 健太郎氏，参加
者約 200 名．
 - ・2018 年 12 月 9 日（日）こどもを対象としたアウト
リーチ活動「いきものミクロ探検隊」：於茨城県自然
博物館，共催・微生物生態学会，菌学会からの講師
・細矢 剛氏，参加者 32 名．ボランティアとして
板垣ひより氏，山田智子氏，伴さやか氏．
 - ・日本菌学会第 62 回大会において，教育普及活動の一
環として「驚きの菌ワールド」7 冊を高校生ポスタ
ー賞（最優秀賞 2 件，優秀賞 5 件）の副賞として提
供した．
- (2) 2018 年度の NL は順調に発行され，編集（組版作業）
用に Adobe InDesign を導入した．2018-3 号以降は原稿
投稿時に著作権譲渡書の提出を著者をお願いする．
- (3) 菌学会ホームページでは，会員個人のウェブサイトへ
のリンクを削除することにした．
- ### 5. 編集関係（服部 編集担当理事）
- (1) Mycoscience のインパクトファクターの推移：1.229 (

2017)<<< 1.014 (2016)

- (2) 2018 年度の Mycoscience の発行状況について報告された。契約頁数 420 のところ、vol. 59 (1 ~ 6) は現在 21 頁オーバー。59 (4) は 2017 年開催の 10th International Symposium on Arctic and Alpine Mycology (ISAM10) の発表内容から論文投稿を受け、特集号として巻頭言 1 編 (ページ外)、論文 7 編、資料 1 編を掲載した。
- (3) 2018 年の投稿数は審査論文 102 報、受理 34 報、却下 56 報 (却下率 62%)。審査中 9 報、取り下げ 3 報。Elsevier Editorial System (EES) 再移行後投稿数は増加し、概ね元のペースに回復している。2019 年度も契約頁数の大幅な超過はない見込み。
- (4) 名誉会員 Lichtwardt 博士の逝去に伴う追悼文について、59 (6) に掲載した。
- (5) 2018 年度の日菌報の発行状況について: J-STAGE で 59 (2) (2018 年) から公開作業中、49 巻 ~ 49 巻を登録作業中。59 (1) より、「連絡先」に記入された著者を「責任著者 (Corresponding author)」として各論文 1 頁目左下に電子メールアドレスを記すこととした。また、クラリベイト・アナリティクス社の BIOSIS に収録された。一方、平成 30 年度の奨励賞受賞者の総説の提出が未了である。
- (6) 編集委員会の開催状況:
 - ・2018 年 5 月 25 日 (大会期間中)
 - ・2018 年 9 月 26 日メール会議: 平塚賞推薦論文の選考について。
- (7) 2018 年 2 月 21 日より新投稿審査システム EVISE に移行したが、システムトラブルや使用法の複雑さに伴うトラブルが続発した。Elsevier 社から EES への再移行が提案され、11 月 21 日付で EES へ再移行した。
- (8) 編集経費について、スタイル・チェッカーの謝金は現時点で未支出、日菌報の英文校閲料は 3,756 円 × 1 回、J-STAGE 搭載作業料 318,000 円 (41(1) ~ 49(2): 129 報分) であったと報告された。

6. 会計関係 (中島 会計担当理事)

資料に基づいて、2018 年度の決算及び監査について報告された。(総会資料を参照)

- (1) 2019 年 4 月 15 日、勝美印刷内学会事務局にて鶴海監事、田中監事、網野会計士、山岡会長、中島理事、岡根理事、清水理事、近藤氏 (勝美印刷) の各氏により 2018 年度の業務及び会計の監査が実施され、適切に事業が行われたことが確認された。監事からの指摘事項は以下のとおり。
 - ・旧支部との関係も特に問題なく (本学会の法人化が進んで) 良かった。
 - ・メールでの審議が迅速に進められており、大変良い。
 - ・出版会社の選択については慎重に検討して欲しい。

- ・法人立ち上げ後の学会業務は順調に進んでいる。
- ・法令順守の点についても問題ない。

一方、前年と同様に、留意事項として以下の点が挙げられた。

- ・定款及び法律に照らし、それらから逸脱するような業務、言動、行為はなかったのか、についても監査対象として確認する必要あり。また、そのような問題が発生していた場合、是正措置が取られているかの確認も必要あり。
- ・定款第 3 条に沿った事業を展開したことも明記、説明する必要あり。

7. その他

- (1) Asian Mycological Association Awards (AMA) 候補者を 1 名推薦した。
- (2) 日本分類学会連合とともに、日本植物分類学会が対応を始めている「植物標本輸入問題の解決に向けた活動」を支援する。また、日本分類学会連合による国際藻類・菌類・植物命名規約の和訳本については「命名規約公約委員会」に保坂氏が委員として参加しているところ。深圳規約の日本語版出版が 2019 年 6 月になると報告された。
- (3) 環境微生物系学会コミッティー設立への対応として、学会ないに委員会を設置した。
- (4) 日本微生物学連盟理事会 (2018 年 4 月 20 日, 9 月 14 日) に出席し、AMC2019 in Mie への後援依頼を行なったことが報告された。

【審議事項】

1. 庶務関係

- (1) 2019 年度の事業、会議の開催、名誉・功労会員候補及び各賞の募集予定が概ね例年通りに立案された。
- (2) 業務委託については、前年通り。会誌の出版について、Mycoscience は Elsevier 社に、日菌報及び NL は勝美印刷に業務委託を行う。但し、Elsevier 社との契約を 2021 年以降も継続するかについては検討とする。(質疑応答)

組織の引き継ぎと総会の段取りについて、総会を開催しないと実行の体制が整わないという点において、非常に混乱する事態が散見される。持ち回り総会を開催することもできるが、役員交替を法務省に提出する際に総会 (決定時) の議事録を提出しなければならない。メール審議の場合どうすべきか行政書士に確認したい。また、次の日菌報 60(1) の出版を総会の日以降とする。庶務関係の事業計画に委員会の発足とメンバーについて入れ、役員→幹事→委員会の順で、総会で承認を得られれば、次期会長名で出版することができる。

2. 国内集会関係

秋田大会、青森フォーレの開催案が提示された。いずれも第1回理事会で提案された内容に変更なく、その場で承認された。

第64回大会の開催案について、2020年6月@大阪市立自然史博物館の第一案が示された。菌類観察会(フォーレ)については本年度8月までに場所など具体案を策定するとされた。

3. 国際集会関係

今年の台湾との合同シンポジウムは来年に延期する。数か国合同でやるなど、次回以降の進め方を検討したい。2020年10月台湾、2021年韓国で調整中。AMC会期中に各国代表と話し合う予定である。

4. 企画・広報・教育・普及関係

2019年度の年次計画は、A) 一般社団法人として学会員の公益に加え、社会に対する公益を考える必要がある。B) 学会のプレゼンスの向上と発展(深め、広げる)を目指す。C) オープンサイエンス、市民科学などの新しい潮流へ対応する必要がある。を踏まえて、ホームページの充実として英文ページの作成、他学会との連携、後進育成、AMCを控え、国際イベントでの宣伝活動(パンフレットの改訂、増刷)を実施する計画が提案され、以下の通り承認された。

- (1) 微生物生態学会のアウトリーチは10周年を迎えるため、特別プログラムとなる予定。
- (2) データベース改良、学術コンテンツの充実、情報分野の紹介、NL一部コンテンツの公開の検討、賛助会員のロゴの紹介など。
- (3) 例年開催している自然史学会連合の講演会は本年度はなし。イベント「教員のための菌類講座」の開催を2019年7月26日国立科学博物館(上野)とする。

5. 編集関係

以下の3点について提案があり、質疑応答と議論を経て概ね原案通り承認された。

- (1) 2019年度の編集委員及び幹事が選出・提案された。また、本年度中にメール審議を合わせ2回の編集委員会が開催予定である。
- (2) Mycoscienceの出版予定について、Elsevier社と年間契約を420頁とし、6号分を出版する。超過分は超過頁料金(15,000円/頁)で対応する。また、学会負担により一部論文オープンアクセス化を継続する。
- (3) 日菌報の出版は例年と同じ。午前中の編集委員会で日菌報の投稿規定の改正について、英文の記事を「資料(刷り上がり4ページ以内)」としての掲載を認め、新種記載を推進させることが承認されたと報告された。

日菌報のタイトルを変える予定はない。

(質疑応答)

1) 日菌報の英文の記事について

日菌報とMycoscienceの位置づけについて、編集委員会の結論では、Mycoscienceは英文誌、日菌報は国際性はあるが原則和文である雑誌、という従来どおりの表現が望ましい。科研費を取得するような場面では、和文誌を国際誌といっても通用せず、引用率や海外での評価が必要。Mycoscienceは国際誌としての要件を満たしている。

- 2) 過去の日菌報のJ-Stageへの掲載について(3,000円/1報)、随筆などの記事を掲載する必要性については、PDF化、DOI取得作業などをアルバイト等を雇って作業を進めた方が安く上がるのではないかという意見があった。これについては編集の仕事増大となり同意しづらいという意見と、アーカイブズの観点からは、随想なども全てJ-stageに載せてしまった方が良いという反論があった。結果として、勝美印刷に加工を依頼し、学会記事を除いて、過去の記事を全て掲載する方針で進めることで合意、承認された。

6. 会計関係

資料に基づいて2019年度予算案が説明された。IWEMM10の参加補助の予算を「国際シンポジウム」に計上する必要性について担当理事から説明がされた。本支出はAMCとは財源が異なることが確認され、了承された。

7. その他

(1) データベース委員会

2019年度活動報告及び次年度に向けたメンバー入れ替えの提案があり、異議なく承認された。今後、データベース利用者の利便性を高める方向性で進めていく。

(2) Mycoscience 契約変更検討WGの発足

文科省はオープンアクセスを奨励しているが、エルゼビアでは費用が異様に高く、公費を充てるのが妥当か、出版社の契約変更をした方が良いのではという意見があり、編集委員長や契約経験者(青木、清水、中島、服部、矢口、山岡)でWGを立ち上げたい。現在は2020年度までの契約だが、変更があれば今年12月までに回答する必要あり。答申は10月までにまとめなければならない。WGは会長直下の位置づけとするが、編集委員会にも意見を求めつつ、答申は理事会に返すことが確認され、発足について承認された。

以上。